



①



②



③



④



⑤

## 写真で語る世界史

### ローマ時代からの町 タラゴーナ

バルセロナから80kmほど南に走ったところにタラゴーナの町がある。紀元前3世紀にローマ人によって築かれたタラゴーナは当時タラークと呼ばれており、100万もの人口を持つイベリア半島最大の都市として栄えた。

タラゴーナの町から地中海を見下ろす高台にあるのが円形競技場(写真①)である。1世紀に建造され、当時は猛獣と剣闘士の壮絶な闘いなどが見世物にされたといわれている。しかし収容人数1万人以上の巨大な競技場も現在は美しい地中海を背景に平和な様子である。

大都会であるバルセロナとは異なり、町の中は静かで穏やかな空気が漂っている。現在主要都市の中心部では伝統的なシエスタの習慣が見られなくなってきているが、ここタラゴーナではまだその様子を感じることができる。町の住人は日中家の中で過ごしており、見かけるのは観光客だけのようである(写真③)。

町の中にはローマ時代の名残だけでなく、ローマの神殿の跡、12世紀に造られたカテドラルも残っている。ロマネスクやゴシック、バロック様式などが混在し、回廊にはイスラームの影響もうかがうことができる(写真④)。

タラゴーナでもっとも大きな目玉は町のはずれ4kmほどのところにある、スペインで二番目の規模をほこるローマ時代の水道橋である(写真②)。タラゴーナはローマ時代にとっても大きな都市であったにもかかわらず、生活の生命線である水源が町から離れていたことが悩みの種であった。しかし当時のローマの土木技術は驚くほど進んでおり、水道橋を造って近くの川の水を町まで引くことができた。この水道橋は最も高いところで27mあり、全長217mである。幅はちょうど人が通れるくらいはあり、現在でも橋の端から端まで渡ることができる(写真⑤)。この橋は均整のとれた美しさもさることながら18世紀まで実際に市民に水を提供していたのが驚きである。この橋の異名は「悪魔の橋」である。悪魔の橋というのはスペインのいたるところにある名称で、悪魔にとりつかれたかのように川の氾濫のたびに橋が流されたことからそう呼ばれたらしい。しかしこのタラゴーナの水道橋は、ある娘と賭けをして勝った悪魔が一晩で造ったという伝説からきているようである。

(熊本県立宇土高等学校 坂井美由紀)

## 写・真・募・集

このコーナーの「カラー写真」を募集しています。国内・海外で撮影された社会科の写真を、資料編集部「世界史のしおり」係までお送りください。